

加藤助教が第11回国際化石藻類シンポジウムで基調講演をしました

2015年9月14日～18日の日程で、第11回国際化石藻類シンポジウム（11th International Symposium of Fossil Algae）が琉球大学千原キャンパス（沖縄県西原町）で開催されました。このシンポジウムは、藻類を研究対象とする古生物学や地質学が専門の研究者の大会で、4年に一度開催されます。今回は、日本地質学会と日本古生物学会が後援でした。参加者は、日本のほか、スペイン、イタリア、オーストリア、インドから合計で20人程度でしたが、化石の海藻類を扱うおもな研究者が集まりました。

化石種の分類は現生種の分類を参照しつつ進められているので、今大会の特別セッションでは、”Morphology vs. molecular evidence in determining algal taxonomy and phylogeny”として、地層に多く含まれる石灰化海藻であるサンゴモ類の分類や系統の現状、さらに現生種の形態および分子データの有効性や問題点がテーマでした。そこで、加藤助教は、現生のサンゴモ類の分類の歴史的変遷と現在の目～種レベルの分類群の認識についてレビューし、古生物学や生態学などの他の分野でのサンゴモ類研究が進むような分類のあり方について意見を述べました。

エクスカージョンでは、化石の記録がある石灰化海藻の現生の群落の観察会と、化石藻類の含まれる露頭（地層が地上に露出している場所）の観察会が行われました。



講演タイトル：

Kato, A. & Liao, L. M. 2015. Current situation of the systematic study of extant coralline red algae. 11th International Symposium of Fossil Algae. University of the Ryukyus, Okinawa, Japan, 14-18, September, 2015.